

様式 1

研究報告書（平成 26 年度）

提出者 柳沢英輔

提出年月日 平成 26 年 3 月 13 日

**【本ユニットにおける研究テーマ】**

和文 現代ベトナムにおけるゴング文化の継承—文化保護政策、公教育と村落内の文化継承に着目して

英文 Succession of Gong Culture in contemporary Vietnam: Focusing on cultural policy, public education and cultural inheritance in village community

**【研究のねらいと目的】**（600 字程度）

ベトナム戦争による文化の断絶、生活の近代化などを背景に、ベトナム中部高原の少数民族が代々継承してきた「ゴング文化」は、近年その知識、わざの継承が危ぶまれている。本研究は、ベトナム中部高原の少数民族村落において、ゴング演奏・調律のわざと知識がどのように伝承されているのかを、ベトナム政府の文化政策や公教育が村落内の伝承に与える影響を考慮に入れて明らかにし、当該地域のゴング文化の継承について考察する事を目的とする。具体的な研究内容は以下の通りである。

- A. ベトナム中部高原コントゥム省、ジャライ省の少数民族村落で、ゴング演奏・調律の伝承がどのように行われているかを明らかにする。
- B. ゴング文化保護政策や公教育におけるゴング文化の指導内容を明らかにし、それらが村落内のゴング文化伝承に与える影響について考察する。
- C. 現地調査で記録・収集した資料を編集・分析して、研究成果の公表を行う。

**【研究業績】** 学会報告・論文など

<学会・研究会などでの発表>

「実験的な民族誌映画における音・身体・環境」『民博共同研究「民族誌映画のナラティブの革新」第 2 回研究会』国立民族学博物館、2014 年 7 月 6 日

「マイクロフォンが捉える多様な音の世界」『京都大学総合博物館レクチャーシリーズ no.129』京都大学総合博物館、2014 年 11 月 1 日

<映像作品の展示・上映>

映像作品"Po thi"（ジャライ族の墓放棄祭に焦点を当てた民族誌映画）の展示、『The 4th Taiwan International Video Art Exhibition』鳳甲美術館（台湾）、2014 年 10 月 31 日～2015 年 1 月 25 日

**【成果の概要】**（800字程度）

本年度は、ベトナム中部高原コントゥム省で短期のフィールド調査を行った。調査では国家の文化保護政策として行われている＜優秀芸術家＞顕彰制度について、2015年にコントゥム省が発行した第1回コントゥム省無形文化遺産＜優秀芸術家＞称号授与者名簿を入手し、その分析を行った。授与者の地域分布は、全授与者43人中、サータイ県13人、ダクハ県14人、コンゼイ県3人、ンゴックホイ県2人、ダクト県2人、トゥモロン県3人、コンプロン県6人であり、特にサータイ県とダクハ県の授与者が多く、コントゥム市については1人も授与者がいないことが分かった。第1回ということなので今後授与者の追加が予想されるが、現時点では生活の近代化が進むコントゥム市内よりも省内他地域の方が無形文化が比較的によく継承されていることが示唆された。

また授与者43人中音楽家が32人おり、その中でもゴング演奏・調律が継承内容として明記されている者が27人もいることから、国家が認定する無形文化の中心には音楽があり、中でも「ゴング文化」が特に重要視されていることがわかった。これは2009年に中部高原のゴング文化がユネスコの無形文化遺産に登録されたことも背景にあると考えられる。

また＜優秀芸術家＞に選出されたバナ族のトゥット氏（サータイ県）がリーダーを務めるゴング演奏グループの演奏を撮影、録音し、トゥット氏に聞き取り調査を行った。当該ゴング演奏グループは幅広い年齢層から構成され、演奏技術も高く、多様な曲を継承していた。同演奏グループはハノイなどベトナム都市部のイベントや、韓国やフランスなど海外での公演経験も有しており、村落共同体内の儀礼・祭礼における演奏だけでなく、外部の聴衆に向けた「パフォーマンス」を行うことのできる演奏グループであることが分かった。今後、同グループの活動を事例にゴング文化の継承について考察する論文と録音作品の制作に取り組む予定である。

**【通信欄】**